

有志舎の新刊です。2015年6月下旬発売

東亜聯盟運動と朝鮮・朝鮮人

—日中戦争期における植民地帝国日本の断面—

松田利彦 著

A5判・ハードカバー・240ページ 本体価格 5,000円

関東軍作戦参謀であった石原莞爾が主唱し、植民地朝鮮の問題にも深くコミットした東亜聯盟運動。戦時下における一つの思想的実験を朝鮮・朝鮮人との関わりの中から読み解いていく。

(目次)

- 序章 東亜聯盟運動とは何か
- 第一章 東亜聯盟論における朝鮮問題認識
- 第二章 姜永錫と朝鮮における東亜聯盟運動
- 第三章 曹寧柱と京都における東亜聯盟運動
- 第四章 名古屋在住朝鮮人の東亜聯盟運動
- 第五章 戦後の東亜聯盟運動と朝鮮人
- 終章 東亜聯盟運動の長い影

<著者紹介>松田利彦(まつだ としひこ)：1964年生まれ、国際日本文化研究センター教授、日本近代史・朝鮮近代史専攻

～版元から～

泥沼化しつつあった日中戦争のなかで、新たな東アジア秩序の構築を提唱するたくさんの「東亜新秩序論」が登場しました。その中でも、関東軍作戦参謀であった石原莞爾の主唱した東亜聯盟運動は、その重要な一角を占め、中国のみならず植民地朝鮮をも視野に入れていた点で特異なものでした。他方で、独立の展望を失っていた朝鮮人の中からもこの運動に参加する者が現れました。戦時期朝鮮の皇民化政策に東亜聯盟運動はどのように向きあおうとし、朝鮮人運動参加者はこの運動に何を求めたのでしょうか。本書は、東亜聯盟運動に参加した朝鮮人たちの実践からその到達点と限界を検証し、植民地支配と「アジア主義」の問題を鋭く論じます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10、宝栄ビル 403

(有)有志舎 電話:03-3511-6085

番線印	ご注文	発行:有志舎	分野
	冊	東亜聯盟運動と朝鮮・朝鮮人 —日中戦争期における植民地帝国日本の断面— 松田利彦 著 A5判・ハードカバー、240ページ 本体価格 5,000円	日本史・朝鮮史 (近代)
	ご担当 様		新刊 ISBN978-4-903426-95-2 C3021

返品条件付注文です。

ご注文は (株) JRC (人文・社会科学書流通センター) へ

FAX: 03-3294-2177

電話: 03-5283-2230